提出日　　　月　　　日

令和　年度　学習評価計画案

○○中学校　　　年　　　　科　　　　教諭　担当教員

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　目 | | 特色ある取組 | 備　考 |
| １．基本方針 | |  |  |
| ２．観点別学習状況の評価 | 知識・技能 |  |  |
| 思考・判断・表現 |  |  |
| 主体的に学習に取り組む態度 |  |  |
| ３．評価方法の工夫 | |  |  |
| ４．個を見取る工夫 | |  |  |
| ５．合理的な配慮 | |  |  |
| ６．教科の特質を生かす工夫 | |  |  |
| ７．実施時期の配慮 | |  |  |
| ８．記録の蓄積の工夫 | |  |  |
| ９．定期考査の実施方法 | |  |  |
| 10．総括と評定の方法 | |  |  |

提出日　４月２０日

令和３年度　学習評価計画案

○○中学校　　１年　　国語科　　主任教諭　担当教員　○○○○

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　目 | | 特色ある取組 | 備　考 |
| １．基本方針 | | 「主体的・対話的で深い学び」のための多面的・多角的な学習評価の実施 |  |
| ２．観点別学習状況の評価 | 知識・技能 | 毎週１回授業時間内に実施する「漢字テスト」「ことわざテスト」を集計するとともに、各定期考査の習得問題の採点結果を集計して各学期の知識得点とする。 | １・２学期の定期考査における習得問題と活用問題の得点比率は、４対１とする。 |
| 思考・判断・表現 | １・２学期の期末考査に活用問題を出題し解答類型で採点するとともに、各学期の「書く活動」の単元の作品をルーブリックで採点する。さらに、２学期には３分間スピーチに取り組ませてルーブリックで採点する予定である。 | 国語科部会で、思考表現問題の作成と解答類型、及びルーブリックの作成を共同で行い評価の妥当性と信頼性を高めるようにする。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 各学期にある「書く活動」では、説明文、意見文、社説を書かせるので、それぞれの作成過程を文章でまとめる「解説文」を提出させてルーブリックで採点する。 | 評価観点としては、ねばり強い取組、推敲による改善、既有知識の活用の３観点とする。 |
| ３．評価方法の工夫 | | 学習評価の観点に沿って、客観式テストの採点、解答類型による採点、そしてルーブリックによる採点を行う。また、生徒による授業中の自己評価活動と相互評価活動を行うためのルーブリックを作成する。 | 生徒による自己評価活動と相互評価活動は、特に「書く活動」を取り入れた単元で集中的に実施して推敲につなげられるようにする。 |
| ４．個を見取る工夫 | | 「書く活動」による作品と「解説文」を個人ごとに丁寧に評価して生徒にフィードバックする。 | ルーブリックは創作活動の前に生徒に提示し目標設定をさせる。 |
| ５．合理的な配慮 | | 発達障害のある生徒には、作品と解説文の提出締め切りまでの日数を２倍取る。 | 通常は３日であるが、６日程度とする。 |
| ６．教科の特質を生かす工夫 | | 評価の観点は、学習の手引きに入れる。 | 生徒に配付する。 |
| ７．実施時期の配慮 | | 評価カレンダーにより、思考力・判断力・表現力を問う学習評価が重複しないよう配慮する。 | 教科部会と学習評価部会で相談の上、重複がないように実施する。 |
| ８．記録の蓄積の工夫 | | クラウド型ソフトウエア上に保存する。 | 教師用と生徒用を分ける。 |
| ９．定期考査の実施方法 | | 事前に活用問題があることを告知する。 | １・２学期を予定。 |
| 10．総括と評定の方法 | | 別紙で定める。 |  |